

様式第10号の3の1（第19条関係）

事業の種類【協働で叶える市民活動促進事業】

事業の名称：地域防災リーダー育成支援事業

団体名	三新塔あきば協議会	事業費	230,108円
代表者	会長 藤原 昌之	補助金交付額	200,000円
構成員	305世帯 780人	事業実施期間	R7.9.14～R8.2.19
協働のパートナー部署	防災部防災安全課、男女共同参画センター、木次総合センター自治振興課	その他連携先	八日市地域づくりの会、新市いきいき会、下熊谷ふれあい会

### 現状と課題

各地区とも防災訓練、防災研修等取り組んでいるが、近年大きな災害がない中、住民の災害に対しての危機意識が薄らいでいる現状からこの状況下で大規模災害が発生した場合、地域住民の安全が担保できるか懸念と不安がある。

### 事業のねらい

地域住民に災害に対する知識や危機感をもってもらうためには、各地域に災害に対しての知識を習得し、地域の防災活動を積極的に推進してもらうファシリテーターの役割を担うリーダーが必要と考え、育成することを目的とする。

### 実施状況

◇実施状況 9月～12月 計4回研修会を開催

第1回 9月14日(日)「木次地区の災害履歴を学ぶ」参加者：23名

第2回 10月19日(日)「ハザードマップによる災害の地域別特性について」参加者：21名

第3回 11月30日(日)「男女共同参画の視点に立った避難所運営」(トイ編)参加者：23名

第4回 12月19日(日)「気象情報の基礎知識習得と住民避難のタイムライン地域別避難ルートの確認・安否確認の方法について」参加者：17名

◇協働の内容（役割分担と成果）

#### 【役割分担】

三新塔あきば協議会の役割：企画（研修テーマの設定）、運営、講師の手配、記録、会計

市の役割：防災安全課 出前講座 講師派遣の依頼他

男女共同参画参画センター 出前講座 講師派遣の依頼他

#### 【成果】

今回の研修会を市と協働で取り組むことで、より連携が深まり、実際の災害時の情報の共有や避難所の運営等の活動がスムーズに行える基盤ができた。さらに、地域自主組織の役割として避難所運営において運営の主体が地域住民にあること、避難生活上必須となる環境づくり（食事、トイレ、掃除等）における男女共同参画の大切さを改めて実感した。

◇今後の改善点等

今回の研修会では、女性の参加者が少なく、参加が全く無い地域もあった。

来年度以降継続して実施する場合、女性の参加を増やしていくことが大事。



様式第10号の3の1（第19条関係）  
 事業の種類【協働で叶える市民活動促進事業】  
 事業の名称：「こどもの声を聴く」連続講座

団体名	まんまるうんなん	事業費	319,716円
代表者	佐藤 文宣	補助金交付額	300,000円
構成員	10人	事業実施期間	令和7年7月1日～ 令和8年3月18日
協働のパートナー部署	雲南市人権センター こども政策局こども家庭支援課 教育委員会社会教育課	その他連携先	-

### 現状と課題

雲南市には子どもが体験をする場は多く準備されているが、「こどもの声を聴く場」はなく、関係者や保護者、地域の大人に「こどもの権利」や「こどもの声を聴く」といった視点、意識が養われているとはいえない。大人に聴く力が不足していることが、子どもたちの感情や意見表明の弱さにつながっていると言える。

### 事業のねらい

子どもまんなか社会に向け、子どもの権利への視点を持った大人を増やし、地域で子どもの声を聴き、子どもの権利啓発に関わる実践者を増やすことを目的とした連続講座（参加型体験学習）を行う。最終日には子どもにも参加してもらい、同じワークを体験しながらこどもの声を聴く機会をもうける。

### 実施状況

#### ◇実施状況

こどもの声を聴く連続講座（全5回）を実施し計93名が参加した。参加者からは子どもに権利を伝える方法を考えていきたい」「職場や家庭で子どもとの接し方を見直したい」といった声や「こどもの権利」を職場でも取り入れたいとの声が多くあった。

#### ◇協働の内容（役割分担と成果）

市：会場提供、広報

団体：企画、勉強会の実施、講師の手配

SNSでの周知や一緒に広報を行っていただくことで、関係者の参加につながった。また、「人権センター」を初めて利用する参加者が多く、施設を知ってもらうよい機会となった。

#### ◇今後の改善点等

外部講師を招いての勉強会は費用面や実施回数の問題に加えて地域の現状、ニーズに合わないこともあり、今後は雲南市や団体メンバーによる子どもの権利勉強会（出前講座）を教育関係者向けやPTA向け、こどもに向け実施していくことが必要である。



様式第10号の3の1（第19条関係）

事業の種類【協働で叶える市民活動促進事業】

事業の名称：自分からできる鳥獣被害対策事業

団体名	雲見の里いいし	事業費	401,263円
代表者	会長 稲田和実	補助金交付額	300,000円
構成員	613人	事業実施期間	令和7年4月1日～ 令和8年3月12日
協働のパートナー部署	農林振興部林業振興課	その他連携先	島根県中山間地域研究センター

### 現状と課題

人口減少、耕作放棄地の増加に伴い鳥獣被害が深刻化している。平成29年に行った住民アンケートでも全世代から困りごとの自上位にあがり、取組みを続けているものの、鳥獣被害はなくなり、地域の安心を脅かしている。

### 事業のねらい

鳥獣被害対策の柱である、捕獲、防除、環境整備について学び、住民が主体的に取り組み、地域の農業や生活の安心を守る方法を考える。

### 実施状況

#### ◇実施状況

1年間にわたり、「女性や未経験者のための電気柵設置実習」

「イノシシ対策講習」「電気柵設置振り返り」

「果樹対策講習と集落点検」「地域での追い払い講習」

「振り返り・次年度に向けて」と計6回研修、意見交換を行った。

実際に家庭菜園をしているお宅を借りて、より地域の実態に近い条件で、女性でも取り組みやすい内容を検討、さらに実際に対策をされているお宅を見学して、地域内の協力を促すようにした。

#### ◇協働の内容（役割分担と成果）

##### 【役割分担】

地域自主組織は講習の日程や訪問先、集落点検の調整、告知等を行った。

雲南市は資料作成や、設置後の電気柵の見回り等を行った。

島根県中山間地域研究センターは講義や指導、資料準備等を行った。

##### 【成果】

研修の内容だけでなく、進め方についても専門知識を持った行政職員のアドバイスが非常に有効だった。研修の内容をパンフレットにして配布するなど連携できた。指導や講義だけでなく、効果的な対策をしているお宅や経験豊富な住民を見出し、情報交換を促すように導いてもらったことで、住民同士のつながりを活かした、より主体的な取組みへとつながった。

#### ◇今後の改善点等

今後は集落点検の結果を、成果に結びつけるような活動（放任果樹の伐採など）に取り組めると良いと思う。若い世代や非農家の関心をさらに高める取組みについても検討したい。



様式第10号の3の1（第19条関係）

事業の種類【協働で叶える市民活動促進事業】

事業の名称：えすこな終活プロジェクト ～終活の今を知る・伝える・つなげる～

団体名	うんなん終活支援センター	事業費	302,169円
代表者	松尾澄美	補助金交付額	300,000円
構成員	10人	事業実施期間	R7.7.1～R8.2.27
協働のパートナー部署	長寿障がい福祉課 保健医療政策課	その他連携先	雲南市社会福祉協議会

### 現状と課題

うんなん終活支援センターとして講習会・相談会の継続開催により、一定の認知は進んできた。一方で、終活の情報はまだ十分に行き届いておらず、行動に移せていない住民も多いと考えられる。高齢者支援の現場では制度外の支援に依存する状況があり、支援者の負担や支援の不均衡といった課題がある。今後は実態を把握しながら、持続可能で公平な支援体制のあり方を検討していく必要がある。

### 事業のねらい

終活の個別相談会や講演会等のイベントを開催し、地域住民の方に終活の大切さを啓発することで、「終活は特別なものではなく、日常の延長にある」と実感してもらい、意識醸成だけでなく、支援への導線を強化する。また、個別相談等により、終活支援を必要とする方のニーズを把握し、行政・福祉・医療・地域が連携した持続可能な支援のあり方を検討する。

### 実施状況

#### ◇実施状況

- ・終活講習会、相談会の開催
- ・終活啓発ポスター、パンフレット作成
- ・行政、福祉、医療へのアンケート実施
- ・エンディングノートの普及啓発

#### ◇協働の内容（役割分担と成果）

- ・うんなん終活支援センター  
：イベント開催運営、調査の企画・実施
- ・市協働課  
：周知広報、関係団体との調整、支援

#### ◇今後の改善点等

今回の協働により培った、関係機関との連携を継続し、情報共有や役割分担を明らかにしながら切れ目のない支援体制の構築を図る。



様式第10号の3の1（第19条関係）

事業の種類【協働で叶える市民活動促進事業】

事業の名称：飯石から「平和を」事業

団体名	雲見の里いいし	事業費	305,513円
代表者	会長 稲田和実	補助金交付額	300,000円
構成員	613人	事業実施期間	令和7年6月1日～ 令和8年2月13日
協働のパートナー部署	三刀屋総合センター自治振興課 雲南市教育委員会社会教育課 雲南市総務部総務課 雲南市人権センター	その他連携先	三刀屋如己の会

### 現状と課題

永井隆博士は三刀屋町飯石地区の出身で、飯石地区では「おいたちの地」として永井博士の顕彰活動や発信を行っている。

雲南市でも「平和を」の都市宣言に始まり、第3次雲南市総合計画、第5次教育基本計画に永井隆博士の平和への願いが盛り込まれている。飯石地区だけでなく雲南市全体で顕彰や発信に取り組み、雲南市内外の次世代へ「如己愛人」「平和を」の精神を受け継いでいくことが課題である。

### 事業のねらい

戦後80年を迎える今年、永井隆博士が幼少期を過ごした飯石で講演会や交流事業を開催し、永井博士が唱える「平和を」の願いを地域にはぐくみ、次の世代につなぐ機会にする。

### 実施状況

#### ◇実施状況

8月9日、永井隆博士の母校の旧飯石小学校で「飯石から“平和を”本間恵美子さん講演会」を開催し、200名が聴講した。講演会後は永井隆博士おいたちの家で「永井隆タイム」を開催し、24名の参加があり、トイレットペーパーの芯を使った「シン・アート」という飾りづくりを行った。講師の本間恵美子さんも引き続き参加され、地域住民や子ども達と交流した。



#### ◇協働の内容（役割分担と成果）

地域自主組織は制作物の準備、告知、当日の運営、講演者との連絡調整。雲南市は告知、当日の会場設営・展示準備、おいたちの家での折り鶴飾りづくりの指導。三刀屋如己の会は告知の協力、当日の講演者、来賓対応を行った。幅広く告知に取り組んだおかげで講演会には200人の聴講者が集まり、講演会後の永井隆タイムにも子どもや若い世代の参加があり、「平和を」の精神を次世代に語り継ぐ第一歩になった。また永井隆タイムで制作したシン・アートは永井隆平和賞で展示され、飯石地区から雲南市全体へとつながる事業になった。



#### ◇今後の改善点等

行政や如己の会とのさらなる連携強化。

町内の小学生が参加しやすい事業企画や案内方法の検討。

事業の名称：うんなんサードプレイスMAPプロジェクト

団体名	スキマノワ	事業費	308,900 円
代表者	引野 佳明	補助金交付額	300,000 円
構成員	5人	事業実施期間	令和7年10月1日 ～令和8年3月13日
協働のパートナー部署	健康福祉部健康福祉総務課、健康福祉部長寿障がい福祉課、教育委員会児童生徒支援課、教育委員会キャリア教育政策課、こども政策局こども政策課	その他連携先	社会福祉法人雲南市社会福祉協議会、(公財)うんなんコミュニティ財団、(一社)umi

### 現状と課題

雲南市には居場所づくり、引きこもり支援や不登校支援を行う団体や活動は複数存在しているが、情報が少なくまた、その情報を取りまとめたものも存在していないため不登校児童の保護者が困っているという地域課題がある。また、活動する団体同士もお互いを知る機会や情報が少ないと感じている現状がある。

### 事業のねらい

うんなんサードプレイスMAPの製作及び不登校支援団体や居場所づくりに関連している団体や活動の調査と情報共有化を図り、コミュニティ醸成に取り組んでいく。

### 実施状況

#### ◇実施状況

- 1 市内サードプレイス団体へのヒアリング
- 2 団体のネットワークづくりや組織基盤強化を目的とした意見交換会・勉強会の実施
- 3 市内のサードプレイス周知に向けた可視化とプラットフォーム化を目的としたマップの製作とお披露目イベントの開催

#### ◇協働の内容（役割分担と成果）

##### 1. 役割分担

スキマノワ：企画、運営、MAPの作成  
ネットワークづくり

市：イベントやMAPの周知、関係者への呼びかけ

##### 2. 協働の成果について

今回の協働によりイベント等も含めて広く情報発信を行うことが出来た。また、サードプレイス団体にも本活動への理解促進を図ることが出来、更に第3の居場所の意義、不登校児童や引きこもりを含めた居場所を必要とする人の状況等について関心を持つ協力者の発掘などに繋がった。

##### ◇今後の改善点等

まだ十分に情報が届いておらず、地域において第3の居場所への理解も十分ではない為、今後はより多くの人にマップが周知されるよう、配布先やWEB掲載先を増やしていく。

